ラムサール条約の3つの柱

ラムサール条約には、条約の目的である湿地の「保全」と、湿地の恵みを持続的に活用する「ワイズユース(賢明な利 用)」、さらにこれらを促進する「交流・学習」の3つの柱となる考え方があります。この3つの柱を軸にした取り組み が、大崎の「宝」を守り、育み、そして次世代への継承につながります。

枯れた植物が堆積すると水面が狭 まり、「ねぐら」の面積が減少するこ とで、ガン類の生活環境の悪化が懸 念されます。ガン類の生活環境を守 るため、ヨシの刈り取りや、地域の消 防団と協力した野火により、陸地化 を抑制しています。



▲野火による陸地化の抑制

ワイズユース(賢明な利用)

周辺水田では、「ふゆみずたんぼ」 (冬の円んぼに水を張る無農薬農法) の取り組みが行われています。「ふゆ みずたんぼ]はガン類の[ねぐら]と なるだけではなく、作られた米は、渡 り鳥との共生を目指す地域ブランド の象徴でもあります。



▲ガン類の憩いの場「ふゆみずたんぼ」

交流•学習

次世代育成として、市内の小・中学 生を対象に、「蕪栗沼・周辺水田」を活 用した環境学習を推進しています。

また、豊かな自然環境を生かし、冬 季の渡り鳥観察だけではなく、里山 の散策など四季を通じたツーリズム を展開しています。



▲多くの人が渡り鳥の観察に訪れます

「蕪栗沼・周辺水田」を支える人

長年にわたり、「蕪栗沼・周辺水田」の環境保全活動などに取り組んでいる特定非 営利活動法人「蕪栗ぬまっこくらぶ」副理事長の戸島 潤 氏に話を聞きました。

生物多様性の宝庫として世界に誇れる蕪栗沼は、今では地域にとってかけがえの ない「宝」と認識されていますが、旧田尻町時代に県が計画した洪水抑制のための遊 水地工事は、自然環境への配慮が不足したものでした。しかし、豊かな生態系を守る ため地域住民と県が協議を重ねた結果、協議の中で自然環境に配慮した「蕪栗沼遊水 地1の保全計画が策定され、保全意識が地域全体に広がりました。

私たち「蕪栗ぬまっこくらぶ」は平成12年に法人を設立して以来、動植物のモニタ リング調査や小・中学校での環境教育などに取り組んでいます。ラムサール条約湿地登録から20周年を迎えた 今、豊かな湿地環境を中心とする人間と生物の共生モデルとして、「蕪栗沼・周辺水田」の在り方を世界に発信し ていきたいです。

「無栗沼・周辺水田」ラムサール条約湿地登録20周年祭 ~つなげ、100年先の未来まで~

「蕪栗沼・周辺水田」ラムサール条約湿地登録20周年の記念シンポジウムなどを開催します。この機会にラム サール条約湿地の役割について、改めて考えてみませんか。詳しくは、市ウェブサイトを確認してください。

11月8日(土) 10時~

大崎市田尻文化センター

4クイズコーナー、**5**手作りワークショップ

定員 12300人程度3先着40人

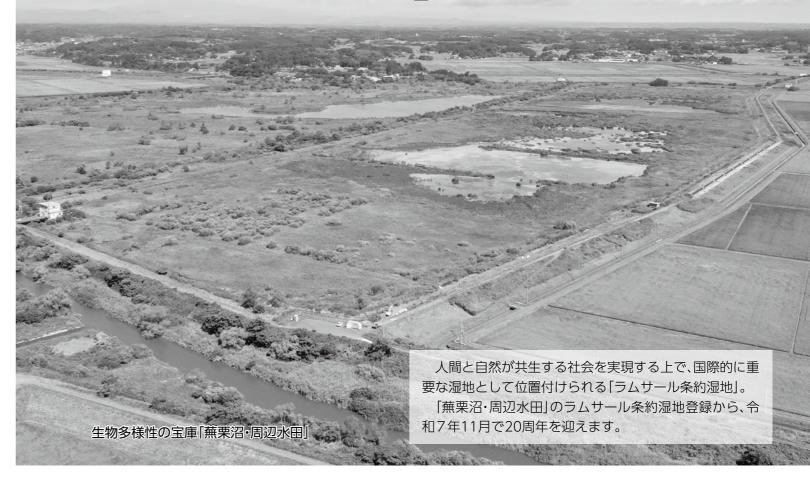
申込 ①~310月1日例から31日 金まで申込フォームで申し込み



「蕪栗沼・周辺水田」ラムサール条約湿地登録20周年

未来へつなぐ大崎の「宝」

問 農政企画課世界農業遺産未来戦略室 ☎23-2281



部

 \mathcal{O}

17 o 年 取 環



▲水田で落ち穂を食べるマガン